

2025年度(令和7年度)に使用する福山市立中学校用教科用図書の採択結果

種 目	発行者名	教科書名	採 択 理 由
国語	光村図書出版	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年、本編に情報活用に係る単元「情報×SDGs」を設定している。また、「情報の扱い方」を具体例や図解で示した「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」を設定している。 ○ 第2学年で文章全体と部分の関係や、文章と図表の関係に注意して内容を読み取る単元を設定している。 ○ 第2学年「適切な根拠を選んで書こう」では、冒頭頁で学習の流れを4段階で設定し、意見文の例を示している。 ○ 第1学年「8自分を見つめる」では、「読むこと」教材と、「書くこと」教材、「話すこと・聞くこと」教材をセットで単元構成している。 ○ 全学年に「学びを深める」として、「語彙ブック」が示されている。巻末の「資料編」では、「学びのカギ」一覧等の他、国語から他教科等に広げて活用できる資料を示している。
書写	光村図書出版	中学書写	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「姿勢・筆記具の持ち方」「用具の準備・片付け」では、「書くときの姿勢」「タブレットを使う姿勢」「筆記具の持ち方」「用具の準備」「用具の片付け」等を、写真で示している。 ○ 「インタビューのメモ」「選挙ポスター」「高校の入学願書」等を書く場面を設定し、場面に応じて、楷書と行書のどちらで書くか考え、理由を話し合えるようにしている。 ○ 全学年に、書写学習を教科の学習や学校生活に生かす活動を設定している。第1学年では、集めた情報をノートにまとめる活動、第2学年では、職業ガイドの新聞を作る活動、第3学年では、書写の学習を生かして、地域の防災に取り組む活動を設定している。 ○ 第1学年「文字の歴史を探る」、第2学年「行書に調和する仮名」を設定している。第3学年では、発展として「なりきり、書聖・王羲之」を設定し、文字の歴史を示している。巻末には書き初めの由来等を扱う「書き初めマスターブック」を示している。 ○ 全学年で57個の二次元コードがある。目次に、教科用図書に掲載のデジタルコンテンツ一覧にアクセスできる二次元コードを示している。巻頭の二次元コードでは、用具の扱い方や準備の仕方、姿勢、学習前後の体操動画が閲覧できる。

<p>社会 地理的 分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい社会 地理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文の学習内容を説明したり、関連する内容を取り上げたりしている「未来にアクセス」のコーナーを設定している。 ○ 「世界の諸地域」では、各州の探究課題について、資料を整理し、自分の言葉でまとめる学習活動を設定している。 ○ 「日本の諸地域」では、初めの頁で、写真や「小学校の社会で習ったことば」等を掲載し、第1時と第2時の間に「探究課題」を示している。 ○ 総頁数304頁、目次・巻頭資料等10頁、「世界と日本の地域構成」26頁、「世界のさまざまな地域」110頁、「日本のさまざまな地域」136頁、巻末資料11頁である。 ○ 「日本の地域的特色」では、写真45点、絵図6点、地図26点、図表・グラフ22点、二次元コード13点を掲載している。
<p>社会 歴史的 分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい社会 歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとに、タイトルを「鎌倉幕府の成立と執権政治」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの表現で、1時間ごとの学習課題を示している。 ○ 「武士が生まれ、その支配が広がった中世の日本で、社会はどのように変化したのでしょうか。」という探究課題を設定し、「政治の動き」「東アジアの情勢」等4つの視点で整理し、考えを文章でまとめる活動を設定している。 ○ 見開きで、絵図や写真、人物等のイラストを用いた年表を掲載し、資料の読み取りやグループ学習を示している。キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。 ○ 近代では、「フランス革命」等のタイトルで4頁にわたり、民主主義の来歴や人権思想の広がりを記載し、「ボストン茶会事件」、「バスチーユ牢獄の襲撃」等の資料を掲載している。 ○ 現代の日本に関する単元では、写真71点、絵図1点、地図5点、図表・グラフ14点、文書資料5点、年表1点、人物3点、二次元コード14点を掲載している。
<p>社会 公民的 分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい社会 公民</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動での体育館使用についての対立の例を示し、「1年前の学校でのトラブルについて考えよう」等の課題を、絵図で示している。 ○ 「現代社会と私たち」の単元末において、見開き1頁を使い、「T市の新しい公園の使用ルールを考えよう」という学習課題を示している。学習活動として、「第1章で学習してきた『効率と公正』の観点をふまえて、新しい公園のルールを提案しましょう。」等の3つの活動を設定している。 ○ 「私たちの暮らしと経済」では、「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」として、イラストと表を掲載し、出店場所や主力商品についてグループで話し合う活動等を設定している。キャラクターの吹き出しで章の探究課題を示している。 ○ 「S市の議員になって条例を作ろう」として、「あなたが考える活気あるまちを、ステップチャートの、『理想のまち』の欄に記入しましょう」等を示している。 ○ 「私たちと現代社会」では、絵図15点、写真76点、地図1点、表・グラフ16点、年表2点、文書資料1点、二次元コード14点を掲載している。

地図	帝国書院	中学校社会科 地図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭に、「この地図帳の凡例」を記載している。「この地図帳の使い方(1)」では、オセアニア州を例に、地図の見方や構成、使い方を、「この地図帳の使い方(2)」では、富山県を例に、記号の意味や色の濃さの違いの意味等の解説をしている。 ○ 「地図で発見！」のコーナーを設け、社会科の学習を、地図をもとに確認したり深めたりする問いとして「1月の降水量が多い地域は、太平洋側・日本海側のどちらか答えよう。また、降水量が多くなる理由を⑦図を使って説明しよう。」等の問いを156問記載し、解答例を二次元コードで示している。 ○ 世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料を掲載している。中国・四国地方では、一般図の次に、自然や降水量などの資料が掲載されている。 ○ 本体サイズは、A4版としている。配列及び頁数は、世界と日本の資料図28頁、世界の諸地域58頁、日本の諸地域74頁、統計9頁、さくいん11頁、巻頭・巻末18頁、総頁数198頁である。世界、日本、統計、さくいんに分類し、インデックスで色分けしている。 ○ 縮尺については、世界の広域地図を3500万分の1～9000万分の1で示している。日本全体の地図を500万分の1で示している。
数学	東京書籍	新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年「1次関数」では、水を熱したときの温度の上がり方を時間と温度の変化の様子に着目し、表、グラフ、式で表して調べることを通して、1次関数の概念について理解できるようにしている。 ○ 第2学年「1次関数の利用」では、表やグラフの特徴をもとに時間と温度の関係を1次関数とみなすことでペットボトルの温度が10℃以下に保てる時間を予想し、説明する等の展開となっている。 ○ 第2学年「平行と合同」の角の大きさの求め方を考える内容で、求め方を説明する等の活動をした後、どのような考えが大切だったか振り返る場面を設けている。 ○ 全学年1冊構成である。全学年巻末では、思考力・判断力・表現力等を高める「数学の目で振り返ろう」や「数学の自由研究」、知識・技能を身につける「補充の問題」を設定している。 ○ 第3学年「関数 $y = ax^2$」では、ジェットコースター等のイラスト20点、花火等の写真10点を掲載している。学年全体で、デジタルコンテンツを215か所掲載している。

理科	新興出版社 啓林館	未来へひろがるサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 章の導入部や関連する内容の近くに「つながる学び」を設けている。単元の中に「例題」「練習」「レビューふり返ろう」、単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「学年末総合問題」を設定するとともに、第3学年の巻末には「中学校総合問題」を設定している。 ○ 単元の導入に、「～について探究していこう」等の表現で写真とともに目標を示している。また、学習を振り返るための「学ぶ前にトライ!」「学んだ後にリトライ!」として同様の発問を示している（二次元コードあり）。 ○ 「探究的な観察・実験の進め方」として探究の過程を示し、サイエンス資料でその留意点を示している。 ○ 第2学年の単元は、「生物」「地学」「化学」「物理」の配列、ページ総数は308ページである。 ○ 巻頭では、「探究の過程」や「この教科書の使い方」等を示している。「ICTの活用」では、コンテンツ一覧を見ることができる二次元コードを掲載している。巻末では、「探究の流れと探究のふり返り」としてチェックリストを示している。また、「探Qシート」の付録や「SDGs目標達成への取り組み」等も掲載している。
音楽 一般	教育芸術社	中学生の音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2・3学年下の「ブルタバ（モルダウ）」では、標題ごとに楽譜の一部を掲載し、楽譜の上に主に演奏している楽器を示し、楽譜の中のブルタバを表す旋律に、色を付けて示している。 ○ 第1学年『My Melody』創作一音のつながり方では、課題や条件に沿って創意工夫して旋律をつくる活動を掲載している。「自分がつくりたい旋律のイメージに近づくように、リズムを変えてもいいよ。」など、考える観点や工夫の仕方、活動の指示を示している。二次元コードを読み取ると、創作ツールとワークシートを活用することができる。 ○ 巻頭で、音楽の表現者と他の職業の著名人、それぞれが感じている音楽のよさや働きなどについてのメッセージを掲載している。音楽と生活との関わりについては、著作権や著作隣接権、音楽が果たすさまざまな役割について説明している。 ○ 歌唱教材、創作教材、鑑賞教材はそれぞれ、第1学年20、2、7教材、第2・3学年上18、2、6教材、第2・3学年下17、2、7教材配列している。 ○ 領域・分野ごとに基本色（歌唱：緑、鑑賞：赤、創作：青）を設定し、ページ左端もしくは右端にそれぞれの基本色の枠を設けて「学習目標」と「音楽を形づくっている要素」を示している。

<p>音楽 器楽合奏</p>	<p>教育芸術社</p>	<p>中学生の器楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標を見開き左に縦書きで示し、支援として音楽を形づくっている要素や活動文、奏法等の写真や図、二次元コード等を掲載している。 ○ 「風にのって」では、曲の構成を理解し、ふさわしい表現の工夫をして演奏する活動を掲載している。注目するポイントとして、音楽を形づくっている要素を示し、「リズムや強弱はアの部分と比べてどう変わったかな？」など、キャラクターの吹き出しで考える観点を例示している。 ○ 世界の諸民族の音楽に関し、楽器図鑑を用いて楽器の写真に掲載している。また、巻頭の「音楽って何だろう」では、演奏している写真を掲載するとともに、二次元コードで13個の音源を聴くことができる。 ○ リコーダー14教材、ギター2教材、箏6教材、三味線1教材、太鼓1教材、篠笛3教材、尺八1教材、合奏・アンサンブル19教材を掲載している。 ○ 箏教材については、ページ右端の二次元コードを読み取ると、演奏者の情報、親指・中指・人差し指の基本的な奏法、「六段の調」の四段の冒頭で用いられる様々な奏法についての動画を見たり、旋律の創作ツールを活用したりすることができる。
<p>美術</p>	<p>光村図書出版</p>	<p>美術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通事項の指導を充実させるため、造形的な視点を「POINT」で示している。 ○ 「鑑賞」「表現」と表記し、相互に関連した学習例を示している。「表現や鑑賞の題材」では、鑑賞したことから表現に生かすという流れで構成されている。 ○ 生徒の作品を掲載するとともに、生徒の活動の様子を写真で示したり、吹き出しや作者の言葉で主題や表現の意図を示したりしている。 ○ 題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」の分野等に分けて配列している。美術1に別冊で「つくってみよう 見てみよう」がある。題材数は、第1学年19第2・3学年24である。 ○ 各題材において、題材名の横に二次元コードを示している。また、見開きページの右上部に、別冊「つくってみよう 見てみよう」の二次元コードの関連ページを示している。書き込みが可能なデジタルコンテンツになっている。

保健体育	Gakken	新・中学 保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小单元では、「ウォームアップ」として、事例や情報等から発問を提示し、「学習の課題」で1時間の学習を通して身に付けることや、考えたり、判断したりすることを提示している。また、全ての小单元において学習の課題を「わかる」「考える」に分けて示している。 ○ 「ウォームアップ」として、課題に気づくための発問を設定するとともに、「エクササイズ」として、学習した知識及び技能や資料などの情報を基に、思考したり、話し合ったりする活動を設定している。第1学年「性とどう向き合うか」では、性情報の対処について考える発問を設定している。 ○ 「ウォームアップ▶課題の発見」では、課題を見つける活動を、「エクササイズ▶課題の解決」では、考えたり、調べたり、話し合ったりする活動を、「学びを生かす▶学びの活用」では、理解したことを活用し、まとめたり伝えたりする活動を示している。 ○ 発展的な内容として、「発展」マークを付して示し、第1学年4、第2学年10、第3学年4の計18の資料を掲載し、「探求しようよ！」で発展的な活動を掲載している。 ○ 学習内容に関連したミニ知識を示す「情報サプリ」や、教え合い学び合う課題を示す「協働」等のマークを示している。
技術・家庭 技術分野	東京書籍	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「ポイント」を37か所、問題解決に取り組むときに必要となる基礎的な技能を確認させるため、「テックラボ」を18ページ掲載している。 ○ ガイダンス「技術の見方・考え方」において、身近な製品が、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性から折り合いをつけ最適化されていることに気付かせるための漫画等を掲載している。 ○ 「技術分野の学習を終えて」において、これまでの学習を振り返り、これから技術とどのように関わっていきたいか考えをまとめさせる記述を掲載するとともに、社会の中で技術に携わる人へのインタビュー等を掲載している。 ○ ガイダンス28頁、材料と加工56頁、生物育成42頁、エネルギー変換56頁、情報の技術62頁である。 ○ 中学校の各教科等の学習内容との関連については、「リンク」マークを用いて、教科、内容等を23か所に示している。

<p>技術・家庭 家庭分野</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を 目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「B 衣食住の生活の日常食の調理における調理実習例」では、「肉じゃが」等の43の事例、「B 衣食住の生活における布を用いた物の製作例」では、「ミニトートバッグ」等の14の事例を載せている。 ○ 編の導入には課題設定の記入欄を設け、自分の知りたいことやできるようにしたいことを記入することで、生活の課題と実践へとつなげている。また、編末には、「学習のまとめ」を掲載している。 ○ 生活の営みに係る見方・考え方を、「家庭分野のガイダンス」においてマークやイラストを用いて説明している。 ○ 発展的な学習は、発展マークを付し「フェアトレード」など9例を掲載している。 ○ 本文の書体はユニバーサルデザインフォントを使用している。内容ごとに基本色を設定し、見開き左端上部及び右端にインデックスを付している。実習・製作の作業手順を横向きの配置に統一している。
<p>英語</p>	<p>光村図書出版</p>	<p>Here We Go! ENGLISH COURSE</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文、文構造及び文法事項を「Active Grammar」として、各学年3～8項目に整理し、扱われている文法事項等を本文から探し出す「Grammar Hunt」を設定している。 ○ 第3学年 Unit 1の終末の言語活動 Goal「記事を読んで、コメントをしよう」では、Readで絶滅のおそれのあるジャイアントパンダの保護活動についての記事を読み、Speakでグループになり、記事を読んで感心したことや驚いたことについて自分なりにコメントする活動を設定している。 ○ 単元に対する興味・関心を高めるために、扉ページにストーリーの内容を予想する活動や音声を聞いてピクチャーカードを場面順に並べ替える活動を設定している。 ○ 第1学年で小学校外国語科との接続を図るために、巻頭に「Let's Be Friends!」を設定し、小学校で学習した英語の基本表現を取り上げている。帯教材「Sounds and Letters」では、発音とつづりの関係を確認しながら、英語を音声化する力を育成できるようにしている。また、各Unitでは小学校の既習扱いの語彙には、桜アイコンが付いている。 ○ 巻末に、「巻末付録」として「英語の学び方ガイド」「思考の地図」等を掲載している。また、デジタルコンテンツとして、音声や映像の他、言語活動のモデル映像やスピーキングのテスト問題などが収められた二次元コードを掲載している。

<p>特別の教科 道徳</p>	<p>東京書籍</p>	<p>新編 新しい道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で、巻頭に、「道徳の授業はこんな時間に」として、学習の流れ等を「①気づく」「②考える」「③深める・広げる」の3つでイラストや吹き出しとともに示している。 ○ 全学年で、巻末に、「自分の学びをふり返ろう」として、学期ごとに、心に残った教材や道徳科の授業で学んでよかったこと等を記録する欄を設定している。 ○ 問題解決的な学習ができるよう、全学年で、教材の終わりに、「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、学習過程の例を示している。 ○ いじめ問題を扱った教材は、全学年で目次に色分けし、いじめの問題をテーマにした3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」を設定している。第3学年では、「A-1 自主、自律、自由と責任」の内容項目の教材として、「ある日の午後から」を選定している。 ○ 全学年で、「Plus」「SDGs」「つぶやき」等のマークを設定している。全学年で、「デジタルコンテンツで学びを広げよう」や教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等とともに関連するマークを示している。
---------------------	-------------	---------------------	--